日本医史学雑誌　第57巻第4号（2011）　483–492

池田文書の研究（41）

勲功華族の書簡（その5）

池田文書研究会

[63] 浜尾新（あらた）の書簡

当家は但馬国豊岡藩士家.

新の書簡は『東大医学部初代綜理池田謙斎』下巻に23通掲載した．未掲載分を記す.

新は嘉永2年生まれ大正14年没．明治期の教育行政官として活躍．帝大総長・文部大臣歴任．子爵．享年77.（1849–1925）

1　明治17年2月12日　（2529）

九鬼少輔学事巡視トシテ近日長崎佐賀両県下ヘ出張相成候ニ付テハ，来ル十四日午後四時浅草代地河岸川長ニ於テ当省随員送別会相催候ニ付御出席相成候様致度，此段御通知申上候，頓首

明治十七年二月十二日　　伴正順・浜尾新

池田謙斎君

追テ御出席之有無明十三日中ニ御報知被下度候也

[64] 林友幸（ともゆき）の書簡

当家は山口藩士家.

友幸は文政6年生まれ明治40年没．幕末維新に活躍．民部大丞兼大蔵大丞・内務少輔等歴任．富美宮・満宮・泰宮御養育主任．伯爵．享年85.（1823–1907）

1　明治25年9月23日　（2503）

（封筒表）宮内省　侍医局長　池田謙斎殿

（封筒裏）封　神奈川県箱根宮ノ下　安藤兵治方

富美宮御養育主任　子爵林友幸

（消印　東京廿五年九月二十三日ヲ便）

富美宮殿下[1]来ル廿七日午前七時三十分箱根宮ノ下御発，午後一時十二分国府津発仝三時五十二分新橋着汽車ニテ還御被為在候間，此段御通知申進候也

二十五年九月廿三日

富美宮御養育主任　子爵　林友幸

侍医局長　池田謙斎（ママ）殿

（1）富美宮　明治天皇第8皇女・允（のぶ）子内親王．明治24年8月7日生まれ昭和8年1月1日没．朝香宮鳩彦（やすひこ）王妃．享年43.（1891–1933）

2　明治25年10月3日　（2502）

来ル七日富美宮殿下御誕辰御祝ニ付被為召酒饌被下候間，午前十一時三十分（欠）参邸相成度此段申進候也

二十五年十月三日

富美宮御養育主任　子爵　林友幸

侍医局長　池田謙斎殿

（用箋　宮内省）

3　明治34年5月7日　（2504）

来ル十一日泰宮[1]殿下御誕辰ニ付被為召候間，仝日午後三時御参邸相成度此段申進候也

明治三十四年五月七日

御養育主任　子爵　林友幸

男爵　池田謙斎殿

（1）泰宮（やすのみや）　明治天皇第9皇女・聰子（としこ）内親王．明治29年5月11日生まれ昭和53年3月没．東久邇稔彦（くになるひこ）王妃．享年82.（1896–1978）

4　明治35年12月3日　（2505）

来ル七日富美宮殿下御誕辰御祝被為在候ニ付，被為召候間仝日午後二時御参邸相成度此段申進候也

明治三十五年十二月三日

御養育主任　子爵　林友幸
男爵　池田謙斎殿

[65] 土方久元（ひじかたひさもと）の書簡

当家は高知藩郷士家.

久元の書簡は『東大医学部初代綜理池田謙斎』上巻に11通掲載した．未掲載分を記す.

久元は天保4年生まれ大正7年没．宮内大輔・宮内大臣歴任．伯爵．享年86.（1833–1918）

1　明治31年2月2日　（3460）
男爵　池田謙斎
今般依勲功被列華族候ニ付，特旨ヲ以テ帝室御資産ノ内金壱萬円下賜候條家門保続之目的可相立候，右奉叡旨相達候事
明治三十一年二月二日
宮内大臣伯爵　土方久元
宮内大臣之印（角印）

2　明治38年5月26日　（2553）
（大日本私立衛生会会頭伯爵土方久元より大日本私立衛生会会則規則改正に関する書類に付き略）
（印刷物）

[66] 平田東助の書簡

当家は米沢藩医家.

東助の書簡は『東大医学部初代綜理池田謙斎』下巻に9通掲載した．未掲載分を記す.

東助は嘉永2年生まれ大正14年没．農商務・内務・内大臣歴任．伯爵．享年77.（1849–1925）

1　明治　年7月9日　（2568）
拝啓，益御清安可被成御座奉欣賀候，然れば愚妻事過日御療法相願候後大ニ快方罷在候処，四五日来又々下痢致し，一日三回位ツヽ或ハ水瀉シ或ハ泡立チてしぶり，但し痛は無之候，困却之旨訴へ出候間，何卒此間頂戴仕候止痢薬御投与被成下候様奉冀上候，頓首
七月九日　東助
池田国手　玉机下

[67] 福羽美静（ふくばびせい）の書簡

当家は津和野藩士家.

美静は天保2年生まれ明治40年没．国学を修め神道関係の制度確立に尽くす．侍講・元老院議官歴任．子爵．享年77.（1831–1907）

1　明治16年1月　日　（2585）
（封筒表）駿河台北甲賀町九番地　池田謙斎殿
東京麹町区下六番町廿三番地
福羽美静（ゴム印）
としのはしめの祝ひことを　美静
誰もミな　御代をめてたし　めてたしと　かさねて祝ふ　としのはつそら
（用箋の四隅に明治十六の印刷あり）
賀新年
参事院議官従四位勲二等　福羽美静
（印刷物）
（名刺に「賀新年」と加筆したもの）

[68] 細川潤次郎（じゅんじろう）の書簡

当家は土佐藩士家.

潤次郎の書簡は『東大医学部初代綜理池田謙斎』下巻に12通掲載した．未掲載分を記す.

潤次郎は天保5年生まれ大正12年没．明治大正期の法制学者．華族女学校々長等歴任．男爵．享年90.（1834–1923）

1　明治17年1月21日　（2047）
（封筒表）駿河台北甲賀町九番地　池田委員殿
（封筒裏）中央衛生会
来ル廿四日（木曜日）中央衛生会并日本薬局方会議相兼発会致候，会議後於内山下町壱番地鹿鳴館ニ午餐可差進候条，当日午前第十一時より御臨席相成度此段御通知申進候也
明治十七年一月廿一日　会長　細川潤次郎
池田委員殿
（内務省用箋）

2　明治　年4月26日　（2635）
（封筒表）池田先生　指上置　細川
（封筒裏）緘

昨夕ハ又々御苦労奉懸候，御診察後頗ル不快ノ感触有之候へとも只嘔気有之而已ニテ一睡，今朝ニ至リ気分ハ立直り候へとも嘔気有之趣ニテ何も食し不申候，一体先日御薬頂戴中中止致し置候位にて，最早駆虫剤ハ難用ト心得居候処，此辺山川へ弁明不行届より如此ニ至り甚以恐縮之至ニ御座候，此儀罷出御申訳可仕候処，却テ御邪魔とも奉存，併て容体申上置候也

四月廿六日　細川

池田先生　左右

3　明治　年　月1日　（2640）

（封筒表）池田先生　侍史　不要貴酬　細川

（封筒裏）〆

毎度枉駕非常之御心配奉掛奉多謝候，今朝之処ハ甚景状よろしく夜半より今朝迄熟睡，覚後言語容貌殆平日之如く相覚申候，此容体ニてハ先以御省念被成下候様申上置度，如此御坐候也

一日　細川

池田先生

4　明治　年7月31日　（2629）

謹呈仕候，益御清適奉賀候，過日は態々御来診被成下主人も大慶ニ被存直得貴慮旨ニ御坐候，爾来痛所も何そ相替候儀も無之候間左様御含可被下候，此折寔ニ軽微之至ニ御坐候へ共，暑中御尋之験まてニ呈上被致候間御廻申候，御咲納被下度候，右之段迄匆々如此御坐候，頓首

七月卅一日　今戸細川家従

池田謙斎様

5　明治　年12月27日　（2644）

敬呈仕候，益御安泰奉欣賀候，過日ハ御繁忙之御中御来診被成下忝被奉存候，此肴寔ニ軽微之至ニ被存候へ共，呈上被致候間御回申上候，御笑納被下度，右之段迄匆々如是御坐候，頓首

十二月廿七日　今戸細川家従

池田謙斎様

［69］本田親雄（ちかお）の書簡

当家は鹿児島藩士家．

親雄は文政12年生まれ明治42年3月没．戊辰戦争で参謀を務め越後府権判事等を歴任．男爵．享年81．（1829–1909）

1　明治31年3月16日　（2666）

（封筒表）神田区駿河台北甲賀町九　池田謙斎殿

男爵議員委托証状入

三十一年三月十六日（異筆か）

（封筒裏）緘　本田親雄

麹町区内山下町華族会館

拝啓，来ル四月十五日議員補欠選挙ニ付小早川四郎氏ヲ候補者ト相定メ候旨一昨十四日付ヲ以テ申上候義ハ御承知之事ト存，御同意ニ於テハ大幸ニ存候，付テハ選挙之当日若御出席無之候ハヽ投票御封緘之上委托証相添前以テ拙者方へ御廻し被下度候，右書式素より御承知ト存候へ共為念別紙雛形并委托証状之用紙御廻し申上候，右御了承被下度候，拝具

三月十六日　本田親雄

（印刷物）

2　明治　年5月26日　（2667）

（封筒表）池田謙斎殿　親展　金子等相添

本田親雄

（封筒裏）封

口述

本田親英（ちかひで）(1)事此前より種々御手厚御療方被成下候処，去ル七日終ニ養生不相叶致死去候，猶忌明之上御礼参上可仕候，乍些少左之品御礼之験迄進呈之仕候条御落手可被下候也

一，御菓子　一箱

一，御謝礼金　拾円

以上

五月廿六日　本田親雄

池田謙斎様

（1）本田親英　天保13年生．親雄の次弟．

3　明治　年11月24日　（2671）

口述

神田錦町　二丁目ロノ三番地　原田二郎

右私親類之者ニ御座候処，昨日来病気ニて臥床罷在候，依て明廿五日御操合を以御門人衆之内御一名同所迄御外診被下候様奉願上候，此段乍略儀書中御依頼候也

十一月廿四日　　本田親雄

池田謙斎様

[70] 前嶋密（ひそか）の書簡

前嶋密の書簡は『東大医学部初代綜理池田謙斎』下巻に2通掲載に付省略.

[71] 槇村正直の書簡

当家は山口藩士家.

槇村正直の書簡は『東大医学部初代綜理池田謙斎』下巻に11通掲載した．未掲載分を記す.

正直は天保5年生まれ明治29年没．維新後京都府に出仕．京都府知事・行政裁判所長官等歴任．男爵．享年63.（1834–1896）

1　明治　年2月9日　　(2682)

愚妻病気腹痛ハ無之候へとも，体を動かす毎に下り物あり，今朝ヨリ雪にて冷し居り申候，大便ハ一昨日以来通し不申候，右申上候，頓首

二月九日　　槇村正直

池田先生様

2　明治　年2月11日　　(2688)

[損]妻儀今午後三時比俄ニ悪感有之，無間其悪感ハ止ミ候処，只今午後五時熱度三十八度九分ニ有之，何卒早速御来診奉願候，草々頓首

二月十一日　　槇村正直

池田様

3　明治　年4月11日　　(2683)

御蔭ヲ以追日快方，何も異状無之候，今日ハ御薬頂戴ニ差出申候，草々頓首

四月十一日　　槇村正直

尚以一昨日小原君御来診之節，大便締り持病之痔病ヲ起し候段，致御話候得とも是も昨日ヨリ和らき快く候間，此段も申添候也

池田様

4　明治　年6月2日　　(2685)

芳子事，口中之痛ミ甚しく候故か，今朝ヨリ食事不仕，午後ハ唯泣く事計にて甚困り入申候，何卒御来診被成下候様奉願候，拝具

六月二日　　槇村正直

池田様

5　明治　年12月2日　　(2695)

女子芳子，右風気ハ大ニ快方ニ候へ共，昨日来時々啼キ候ハ腹痛かと考申候，昨夜もときとき啼き出し申候，尤今朝六時頃大便快く通し申候，しかしなから其後も折々啼候，是迄之御薬頂キニ差出候ニ付此段申上候，二男直亮　右ハまくり頂戴仕度候

十二月二日　　槇村正直

池田先生様

6　明治　年10月12日　　(2686)

先生ハ京都より御帰被成候哉，愚息病気ニ付御診察願度，何日何時に差出候ハヽ御診察被成下候哉相伺度御答奉頼候，草々頓首

十月十二日　　槇村正直

池田先生　御執事御中

7　明治　年2月4日　　(2694)

内藤良子[1]

右来ル六日ヨリ神戸へ罷越候ニ付テハ，是迄常服来リ候薬，遠路之儀故多分持参仕候訳ニモ難相成候ニ付，該地ニテ相求メ度存候間，処方書被下度御頼致し候也

二月四日　　槇村

池田様

(1)　内藤良子　槇村正直の次女．内藤（誉田）政共子爵夫人．明治3年生まれ明治29年没．享年27.（1870–1896）

8　明治　年4月1日　　(2691)

病状

三月三十一日午後六時　脈六十弐至，温三十七度

四月一日午前六時半　脈六十至，温三十六度六分

右之通ニ有之候，御薬頂戴ニ差出候付此段申上候也

四月一日　槇村正直

池田様

9　明治　年4月7日　（2692）

病状

四月五日午後六時　脈六十四至，温三十六度八分

四月六日午前六時半　脈六十弐至，温三十六度八分　正午　脈六十四至，温三十六度八分　午後六時　脈六十四至，温三十七度

四月七日午前六時半　脈六十四至，温三十六度八分

右之通ニ有之候，御薬頂戴ニ差出候付申上候也

四月七日　槇村正直

池田様

10　明治　年10月28日　（2697）

病人容体，一昨日小原君御診察後

一，廿七日午前六時，温三十六度五分，脈七十一，正午，温三十六度九分半，脈八十，午後六時，温三十六度九分，脈八十二

一，今廿八日午前六時，温三十六度五分，脈七十四

右之通ニ有之，尤去ル廿六日より大便之通し無之候，御薬頂キニ差出候付此段申上候，草々頓首

十月廿八日　槇村正直

池田先生様

［72］益田孝・富永冬樹の書簡

当家は幕臣で佐渡奉行所・函館奉行所に勤める．

孝（たかし）は佐渡国にて弘化4年生まれ昭和13年没．幕府使節団に随行し渡仏．大蔵省退官後会社設立し三井物産に合流，社長となる．茶人・美術愛好家．男爵．享年92．（1847–1938）

富永冬樹は益田孝夫人栄子の兄．

1　明治　年5月1日　（2706）

友人新田義雄大患之趣報来候ニ付，唯今為見舞罷越候処，実ニ素人眼ニは旦夕を談さる容体，先生御不在中は橋本先生御注意之よしニは候得共甚心配仕候，然ル処隣家中山譲治儀も一両日前より発熱，今朝来一層之熱度加へ是以不容易様見受候間，必新田へ御見舞も可被成下儀ニ可有之候間，其節は一寸隣家へ御立寄御診察奉願上候，弥熱病ニ候ハヽ頃刻ヲ争候程之儀ニ付，唯今御帰京御草臥之儀は万々奉相察候へ共，従来御懇意之譲治何卒一御奮発被成下候様奉懇願候，右迄匆々頓首

五月一日　孝・冬樹

謙斎大国手　侍史

2　明治　年10月27日　（2707）

爾来益御清適奉扑賀候，陳は弊社々員松本常盤義先頃より肋ニ患処アリ，辺ニ肺臓ニも関係ヲ及し候哉にて大ニ心痛罷在候，小生秘蔵之社員故最早捨置難く先生ニ御依頼申上候，御閑暇之節一応御診察被下度奉希上候，早々頓首

十月念七　益田孝

池田老先生　侍史

3　明治　年3月25日　（2708）

益御清適奉扑賀候，陳は愚生親父難症之腫物ニて困難罷在候，尤格別之義も有之間敷とは存候へ共，追々熱気も強く且つ是迄医師之診察も不受罷在候故，御多忙中何共恐入候へ共，明日一応御光来相願候義は不叶哉，下谷竹町四十七番地ニ住居致候へ共，頑固之人物故御枉駕被下候節は小生御供申上度候間，何時頃御越被下候哉御一報奉願候，其頃同所ニ御待申上居候様可仕候，姓名は益田鳳と申候，右之段懇請仕度，匆々頓首

三月廿五日　益田孝

池田先生　台下

尚々，毎々家族之もの御厚情候義難有奉存候

4　明治　年9月24日　（2709）

拝啓仕候，時下兎角不順ニ候処，益御清適奉扑賀候，陳は荊妻先頃も御診察相願，爾来追々快癒之処，又々近日ニ至りてハ兎角頭痛疲労，遂ニ昨日頃よりハ起床も不被成食事もならす追々重体ニ相見へ候，遠方御多忙之折柄何とも恐入候へ共，御繰合せ早々御診察被成下候義は不相叶候哉，此段

伏て奉願候，右体之義ナレハ不願心得之処，昨今ハ何分安心ならす心配深く懇請仕候，匆々頓首

九月廿四日夜　　益田孝

池田謙斎様　侍史

5　明治　年12月25日　　（2710）

拝啓仕候，時下益御清適奉扑賀候，陳は矢野病者ニ付ては種々御厚情相蒙り難有奉存候，右ニ付今夕少々懇願之次第有之罷出候義ハ余之義ニ無之，到底矢野等之神経質に候てハ，日々ドクトル之来訪無之候得は経過□し難く，就ては是まて折々診察ヲ請ケ居候印東氏ニ日々来訪ヲ乞ひ万事重要之事ハ同氏より御相談申上治療ヲ為し候，毎周少くも二度程は御多忙之御中恐入候へ共御来診ヲ相願度，尤兼て日取御通知置ヲ被下候ハヽ其刻必ス馬車ヲ以御迎ひ申上度との事ニ致候，□永も相懸り候病者と存候へ共，何卒御丹精ヲ以平癒為致度，可然御引受本文請願之趣御聞届被下度候，右相願度早々頓首

十二月念五　　益田孝

池田謙斎様　侍史

6　明治　年6月4日　　（2711）

（封筒表）駿河台北甲賀町十五番地　池田謙斎様

御直披　　益田孝

（封筒裏）封　六月初四

（消印　品川　武蔵荏原　六・四）

御書拝読仕候，益御多祥奉扑賀候，陳ハ迂生所労ニ付御枉駕奉願候処，御所御預り之御方御急病と承ニ付，此頃ハ御帰宅も無之御勉力中之由ニて態々御懇書御坐候外，ドクトル御周旋ヲ以被遣趣，難有感謝ニ不堪候，尤昨夜ハ御門弟御入来被下丁寧御診察ヲ蒙り，以御蔭此度は格別之事も無之，快愈ニ趣キ千万奉謝候，いつレ快愈出勤次第参堂ニ罷可上候へ共，不取敢此段申上置候，早々頓首

六月初四　　益田孝

池田大先生　侍史

尚々，尚又止み難キ病有之候節は何分共々御依頼申上置候，時下折角御加養所祈ニ御坐候

（同封）

寸翰拝呈，陳は益田孝不快ニ付ては御心頭ニ懸ケさせられ，昨夜は尾（ママ）原君為御見舞被下，今朝は猶又尊書到来段々御厚意不堪鳴謝候，委細之容体ハ御門人より御聞取り之通り追々快方，今朝は先ヅ文通位之用事ハ達せ，ケ成り私用出来，此分ニてハ一両日中にハ全快にも可相成哉にも被存候，只今同人よりも御礼旁一書拝呈候由ニ付添へて小生よりも御礼申上候，匆々頓首

四日　　矢野　再拝

池田先生　坐下

［73］松方正義（まさよし）の書簡

当家は鹿児島藩士家．

正義は天保6年生まれ大正13年没．幕末国事に尽くし，内務卿・大蔵大臣・内閣総理大臣等歴任．公爵．享年90．（1835–1924）

1　明治14年6月30日　　（2722）

（封筒表）池田謙斎殿　内務卿　松方正義

（封筒裏）緘

中央衛生会并日本薬局方編纂議事格別勉励ニ付別紙目録之通報酬候也

明治十四年六月三十日　内務卿　松方正義

池田謙斎殿

［74］松本順・竹内玄同の書簡

松本順（良順）の書簡は『東大医学部初代綜理池田謙斎』上巻に9通，竹内玄同の書簡は1通掲載した．未掲載分を記す．

松本順は佐藤泰然の次男として天保3年生まれ明治40年没．幕府奥医師松本良甫の養子となり医学所副頭取・同頭取・初代陸軍軍医総監歴任．男爵．享年76．（1832–1907）

竹内玄同は蘭方医．加賀大聖寺にて文化2年生まれ明治13年没．丸亀藩医・幕府奥医師・西洋医学所頭取歴任．渭川院（いせんいん）と称す．享年76．（1805–1880）

1　元治1年8月　日　　（3425）

奥詰医師　医学所預り　同所頭取助手伝

池田多仲改玄仲

右玄仲儀，去戌年被召出一生之内弐拾人扶持被下，医学所預り被仰付，其後同所頭取助手伝被仰付候処，此度奥詰医師被仰付候ニ付ては右御扶持方之儀永久被下候儀と相心得可然哉，此段奉伺候，以上

八月　竹内渭川院
松本良順

[75] 三井八郎二郎の書簡

当家は松坂にて商家（越後屋）を営み，その後京都・大坂・江戸にて諸事業を展開し日本の近代化に寄与した．

八郎二郎は嘉永2年生まれ大正8年没．三井物産社長．男爵．享年71．（1849–1919）

1　明治　年3月29日　（919）

前文失敬，然ル処今朝より清風邪之気味ニて引篭罷在候処，午后四時頃より殊之外熱気相発候ニ付，甚以奉恐入候得共是非只今ニて御帰館ニ相成候得ハ直様御見舞被成下候様奉願度，自然御帰館深夜ニも相成御見込ニ候得ハ御代診なりとも直様御見舞可被成下候様奉願度候，先ハ右至急御依頼迄如斯御坐候也

三月廿九日　三井八郎二郎
池田様

[76] 箕作麟祥（みつくりりんしょう）の書簡

箕作麟祥の書簡は『東大医学部初代綜理池田謙斎』下巻に6通掲載した．未掲載分を記す．

当家は津山藩医家．

麟祥は弘化3年生まれ明治30年没．祖父は箕作阮甫．幕末・明治期に翻訳・調査に携わる．フランス法体系の開祖．男爵．享年52．（1846–1897）

1　明治　年11月1日　（956）

（端裏書）池田謙斎様差上置　箕作麟祥

昨夜は難有奉存候，扨小生儀今日は幾那塩の効ニヤ只今之処ハ発熱不致，大ニ快キ方ニ御座候，小児儀モ眼の外部の腫レ別ニ増シ不申，其外一日別ニ変候□無之候間，［損］態々御見舞被下ニモ及申間敷と被存候，尚明日御都合次第御見舞被下度，御礼旁々此段一寸申上候，頓首

十一月一日

2　明治　年5月16日　（3532）

拝呈，然ハ祥三[1]儀追々快キ方へ相向ヒ日々帰宅の事ヲ相促候ニ付，佐藤氏へモ相談致候処最早帰宅致候テモ宜敷ト申事ニ候間今日午前帰宅仕候，就テハ尓後ハ両国宅の方え御来診被下度此段奉願候，右申上度匆々頓首

五月十六日

（1）祥三　本書簡に発受信者の記名は無いが，箕作麟祥の書簡にして祥三はその長男と推測される．祥三は明治9年生まれ明治32年没．享年24．（1876–1899）

[77] 元田永孚（もとだながざね）の書簡

元田永孚の書簡は『東大医学部初代綜理池田謙斎』下巻に4通掲載に付省略．

[78] 森有礼の書簡

森有礼の書簡は『東大医学部初代綜理池田謙斎』下巻に2通掲載に付省略．

[79] 山尾庸三の書簡

山尾庸三の書簡は『東大医学部初代綜理池田謙斎』下巻に6通掲載に付省略．

[80] 山岡鐵太郎の書簡

山岡鐵太郎の書簡は『東大医学部初代綜理池田謙斎』下巻に2通掲載した．未掲載分を記す．

当家は幕臣．

鐵太郎は天保7年生まれ明治21年没．維新の際徳川家の存立に尽くした．侍従となり以後宮内省に出仕した．子爵．享年53．（1836–1888）

1　明治　年11月10日　（2854-1）

（封筒表）池田謙斎殿　親展　山岡鐵太郎

（封筒裏）〆

愈御安寧奉大賀候，陳は先年奉願粟津清秀忰此節不快ニて甚困難仕候間，今一応御診察被成下度奉

願候，頓首

十一月十日　　山岡鐵太郎

池田謙斎殿

2　明治　年8月30日　　（2854-2）

過日は石山道雄病気御診察之義懇願いたし候処，早速御承引被成下難有奉存候，最早とても全快は六ツケ敷病気とは存候得共，一度先生へ御診察奉願候ハ大安心之場ニ至り可申候，誠ニ御多端中恐入候得共何分ニも御足労奉仰候，頓首拝

八月卅日　　山岡鐵太郎

池田先生　坐下

3　明治　年11月12日　　（2855）

益御安栄奉大賀候，陳は静岡県下渡辺尽作と申もの久敷病気ニて困難いたし，一度先生へ御診察奉願度出京候ニ付，御多端中何とも恐入候得共御面倒被成下度奉願候，頓首

十一月十二日　　山岡鐵太郎

池田先生　坐下

［81］山縣有朋・伊三郎・執事の書簡

山縣有朋の書簡は『東大医学部初代綜理池田謙斎』下巻に50通掲載した．未掲載分を記す．

当家は山口藩士家．

有朋は天保9年生まれ大正11年没．幕末・維新に活躍．陸軍制度の確立に功績あり．内務卿・内務大臣・内閣総理大臣等歴任．公爵．享年85．（1838–1922）

伊三郎は時津兼亮（有朋の妹壽子は時津兼亮夫人）の次男で山縣有朋の嗣養子となる．安政4年生まれ昭和2年没．逓信大臣・朝鮮総督府政務総監等歴任．公爵．享年71．（1857–1927）

1　明治　年10月10日　　（2857）

（封筒表）池田国手坐下　親展

（封筒裏）〆　有朋

外出は致候得共ニ今颯波理無之今朝御出かけ寸時御立寄可被下候，草々頓首

十月十日　　含雪

池田大国手　梧下

2　明治　年1月13日　　（2859-2）

（封筒表）池田一等侍医殿　親展

（封筒裏）〆　山縣有朋

御清福万賀，扨今朝ニても今夕ニても寸時御来訪相願度奉存候，為其草々頓首

一月十三日　　有朋

池田老兄　梧下

3　明治　年5月11日　　（2869）

御多務察申候，此比治療相願度朝夕之中御立寄被下度候，草々頓首

五月十一日早天　　有朋

池田老兄

4　明治　年11月8日　　（2887）

朝夕之中何日比御さし支無之や，治療相願度奉存候，最明夕ハ差間ひ申候，何分御一報可被下候，草々頓首

十一月八日　　有朋

池田老兄

5　明治　年9月24日　　（2889）

秋気相催凌能相成申候，一両日中治療相願度今夕御都合如何可有之歟御一答可被下候，為其匆々頓首

九月廿四日　　有朋

池田老兄

6　明治　年2月17日　　（2897）

昨日来荊妻胸痛相発甚困難罷在候付，可相成ハ今朝御来診相願度候，小生も風気ニて一両日引籠漸昨昼より外出，未颯波理致し兼申候，匆々頓首

二月十七日　　有朋

池田老台

7　明治　年10月31日　　（2899）

其後ハ為指儀ハ無之候得共，ニ今颯波理と致シ不申候，毎度遠路恐縮之至ニ御坐候へ共，今朝薬城草庵え御来診被下間布や申試候，草々頓首

十月卅一日　　有朋

池田老台

8　明治　年4月17日　（2910）
今朝御出勤前寸時御来診被下間布や，さし急申試候，草々頓首
　四月拾七日　有朋
　池田国手　机下

9　明治　年4月24日　（2912）
拝啓，奥方事今朝ハ余程御気分よろしく下痢も昨日両度御座候のみ，水気候も全くひき候様ニ御座候との御事，只胃の府（ママ）悪敷との御事故消化を能する処の御薬御配剤被下度願上候，昨日の水薬ハ今日猶御用ひ相成候てもよろしく候哉奉伺上候，早々敬具
　四月廿四日　山縣奥　ニて
　池田様　薬局御中

10　明治　年9月30日　（2913）
曾テ御診察相願，御調薬ヲ頂キタル当家令嬢儀其后大磯地方ニ滞在之処，病状ハ別段変リタル事も無之候へ共今暫同地滞在致度趣，就テハ曾テ頂戴致シタル御薬ノ所法書ヲ頂戴致度旨彼地ヨリ申越，左スレハ該地ニ於テ其法書ニ照シ松本ノ薬局ニテ調剤相頼由ニ御座候ニ付，何卒乍御手数右ノ薬法書此者え御授ケ被下候様奉願候，右御依頼迄，匆々
　九月三十日　山縣家扶
　池田殿　薬局御中

11　明治　年9月4日　（2914）
　記
一，錦真綿　壱台
　封書相添
右正ニ致受領候也
　九月四日　山県有朋執事　印

12　年5月5日　（2916）
前略，明六日椿山荘ニ於て小宴相設候間，御閑ニ御坐候ハヽ三時頃より御光臨可被下候，草々敬白
　五月五日　山縣伊三郎
　池田謙斎様
拝呈，先程椿山荘小宴之御案内状差出候処，右日限ハ明後七日ニ御坐候間，同日三時頃より御光臨奉願候，敬白
　五月五日　山縣伊三郎
　池田謙斎様

［82］山田顕義（あきよし）・栗塚省吾の書簡

山田顕義の書簡は『東大医学部初代綜理池田謙斎』下巻に5通掲載した．

山田顕義の関係者と思われる栗塚省吾の書簡を追加する．

1　明治　年12月21日　（1565）
拝啓，乍突然山田伯ニハ一昨日頃より風邪之処，今朝発熱甚シク三十九度五分，唯今（二時半）ハ四十度二分之熱ニ御坐候，何卒万障御繰合即刻御来診被下度奉祈候，拝具
　十二月廿一日　栗塚省吾
　池田国手　侍史

［83］吉井友実（ともざね）の書簡

当家は鹿児島藩士家．

友実は文政11年生まれ明治24年没．幕末・維新に活躍した．工部大輔・宮内大輔・宮内次官等歴任．伯爵．享年64．（1828–1891）

1　明治21年11月18日　（2992）
両陛下来廿一日埼玉県下浦和宿近傍ニ於テ近衛諸兵演習御覧可被為在ニ付，随意参場可有之，別紙心得書相添此段申入候也
　明治廿一年十一月十八日
　宮内次官伯爵　吉井友実
　池田侍医局長官夫人　甲子殿

2　明治23年10月21日　（2993）
両陛下来廿六日御発輦茨城県下へ行幸啓近衛諸兵演習御覧可被為在ニ付，参観被差許候條御参集可有之，此段申入候也
　明治二十三年十月廿一日
　宮内次官伯爵　吉井友実
　侍医　池田謙斎殿
　　同　令夫人

追テ本文参否明廿二日午前内本省内事課ニ被申出度，参場之向ヘハ御発着日時調書及参場心得書ヲ可差出候也

（宮内省用箋使用）

［84］芳川顕正（よしかわあきまさ）の書簡

当家は徳島県出身.

顕正は天保12年生まれ大正9年没．幕末国事に尽し，明治期官僚として活躍．文部・司法・内務・逓信の各大臣歴任．伯爵．享年80.（1841–1920）

1　明治16年12月18日　（2991）

（封筒表）（欠）等侍医　池田謙斎殿

（封筒裏）東京府知事　芳川顕正

本年中当府医術試験之義ニ付御助勢相成鳴謝之至ニ候，仍テ聊為報酬晩餐ヲ進度候条，来ル廿四日午後第四時築地寿美家へ御来車被下度此段及御案内候也

明治十六年十二月十八日

東京府知事　芳川顕正

一等侍医　池田謙斎殿

2　明治19年2月8日　（2989）

徳島県下虎列刺病流行之徴候有之ニ付，船舶検査規則実施可否ノ件内務大臣ヨリ本会へ諮詢相成候間，明九日火曜午前第十時ヨリ臨時会相開審議可致候條御出席有之度，此段至急及御通報候也

明治十九年二月八日

中央衛生会長芳川顕正

中央衛生会委員　池田謙斎殿

追テ本文議案ハ明九日会場ニ於テ御頒布可申候

（コンニャク版）

3　明治19年2月19日　（2988）

今十九日午後第一時ヨリ定会相開候ト去十六日及御通報置候処，修正委員都合有之延会致候條此段御承知被成度，右至急及御通報候也

明治十九年二月十九日

中央衛生会長　芳川顕正

中央衛生会委員　池田謙斎殿

追テ開会之日並ハ更ニ取極可及御通報候

（コンニャク版）

4　明治　年　月9日　（2990）

（端裏書）池田大先生　芳川顕正

本日は老并大丞ヲ以御来診之義相願候所，速ニ御承諾被成下候由ニ付，早々帰宅只今迄御待上申候所，無拠至急他出可致要件出来出門致候間，失礼之段は大海恕被下度奉願候，豚児眼気ニ就てハ是迄之次第ハ家族共より詳明奉申上候間，御高診之上は何分ニも可然御処知被下度奉願上候，右御依頼迄如此候，再拝

九日

［85］渡邊千秋の書簡

当家は高島藩士家.

千秋は天保14年生まれ生大正10年没．幕末国事に尽くす．鹿児島県令・北海道庁長官・宮内大臣等歴任．伯爵．享年79.（1843–1921）

1　明治　年11月22日　（3053）

（封筒表）池田謙斎殿

（封筒裏）封　南鍛治町四番地　渡邊千秋

拝啓，秋気相募候処弥御清成奉賀候，然ハ当春在京之頃は蒙御診按，以御蔭爾来健康瓦全ヲ保居呉々奉万謝候，此度上京仕候付てハ縣治之産古製泡盛及朱欒少々奉入御覧候，御笑納可被成下候，其内拝堂御礼可申上（候）得共先ハ右条迄如此御坐候也，頓首

十一月廿二日　千秋

池田国手先生　侍史

（主要参考文献は次号に記す）